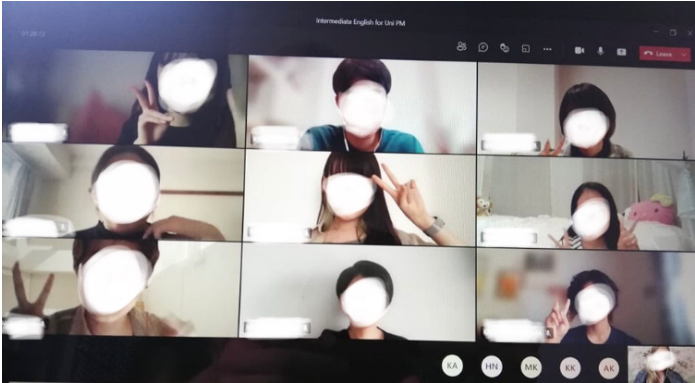


羽ばたけ! TUT2021 報告書概要

2 系 (B) 4 年 氏名 濱崎 史帆

参加プログラム名	Swinburne University of Technology “English for Uni”
研修期間	2021 年 8 月 16 日 ～ 2021 年 8 月 27 日
研修先機関名・ 所在国	Swinburne University, Australia
<u>研修の概要</u> (研修テーマや課題、目標・目的や主な研修活動内容、研修で達成したこと等を簡潔にまとめて書いてください。)	本プログラムは、日本の各大学の学生が参加し、オンラインで実施された。私は英語を話すことに苦手意識を持っており、自分の英語能力に自信がなかった。英語能力を向上させ、自信を持って英語でコミュニケーションが取れるようになりたいと思い、本プログラムに参加した。主な研修活動内容としては、スインバン大学の教員による英語の授業や現地の学生との交流会、バーチャルホームステイであった。英語の授業は、毎週月～水曜日にかけて1日3時間、リーディングやリスニング、スピーキング、プレゼンテーション等のスキルを磨くために行われた。現地の学生との交流会は、スインバン大学の学生だけではなく、韓国の大学生も参加していた。教員ではなく、学生ということもあり、気軽に会話を楽しむことができた。また、バーチャルホームステイでは、実際にホームステイを受け入れている家庭の方と会話をしたり、リアルタイムで家の中を紹介してくれたりして、実際の雰囲気を知ることができた。今回の研修を通して、参加する前と比べて、自分の英語能力に自信を持つことができた、とても有意義な時間を過ごすことができた。今後も、自分で英語を学習するとともに、同じような機会や渡航できる機会があれば進んで参加したいと思う。
<u>活動写真 1 枚</u> (修了証の写真でも可)	

羽ばたけ! TUT2021 報告書

研修内容

① 参加の目的や動機

私は今まで、英語で会話することに苦手意識を持っており、自分の英語能力に自信がなかった。また、留学に興味はあったが、実際に海外へ行くということは、私にとってハードルが高く、なかなか踏み出せなかった。しかし、今回オンラインで留学ができるということから、折角なので参加してみようという意欲が湧いた。研修を通して、自分の英語能力を向上させ、英語でコミュニケーションをとる際の自信を身につけることを目的に参加した。

② 研修内容

<English classes>

スインバン大学の教員 1 名に対し、日本の学生 14 名で授業が行われた。毎週月～水曜日にかけて、毎日 3 時間、リーディングやリスニング、スピーキング、プレゼンテーション等のスキルを磨くための授業が行われた。授業ではあるが、ゲーム性がある活動もあり、楽しく取り組むことができた。また、毎回、ペアで課題を行う活動があった。日本語ではなく、英語で会話をしながら、課題に取り組んだり、また課題が早く終われば雑談を行ったりして、他大学の学生と交流ができて嬉しかったし、英語で気軽に話すことができるようになった。プレゼンテーションのスキルを磨くために、みんなの前でプレゼンテーションを行う機会は 2 回あった。1 つ目は、ペアに分かれてオーストラリアの世界遺産について紹介するというもので、オーストラリアについて深く知ることができた。2 つ目は、個人で日本の昔話を紹介するというものであった。日本の昔話は自分が知っているものが多かったため、他の学生の英語でのプレゼンテーションを聞いても理解しやすく面白かった。また、英語でのプレゼンテーション用のスライドや発表用のスクリプトの作り方を学べた。英語でプレゼンテーションを行い、質問に答えることによって、自分の英語能力に自信を持つことができた。個人的には、英語の授業を通してのこれらの活動が、自分の英語能力の向上につながったように感じた。

<Interact with local students>

現地の学生との交流会では、スインバン大学の学生だけではなく、韓国の大学の学生も招待されて行われた。2 日間行われ、各 3 時間ほど開催された。各セッションは 30 分行われ、毎回グループが変わるが、スインバン大学の学生 1 名、韓国の大学の学生 1 名、日本の大学の学生数名で行われた。話す内容は自由であり、各国の食べ物や、観光名所、またセッションに分かれた時に自己紹介を行うため、共通の趣味について話し、盛り上がることもあった。研修前は、自分が英語で会話をする際に盛り上がることもあるなんて想像していなかった。しかし、他のメンバーや自分の積極的に交流したいという意識のおかげで、良いコミュニケーションを取ることができた。日本で、留学生と話すことはあるが基本日本語で話すため、海外の学生と英語でたくさん話すことは初めてであり、貴重な経験となった。

<Virtual homestay>

バーチャルホームステイは、3 日間、各 1 時間で行われた。この活動では、実際にホームステイを受け入れている家庭の方と会話をしたり、その方の家の中や、近くにあるお店、海をリアルタイムで紹介してくれたりして、実際のホームステイの雰囲気を知ることができた。留学をする上で、ホーム

ステイをするということは私にとってはハードルが高く、不安だったが、会話の途中で英語が聞き取れなかった際には、理解しやすいように別の言い方をしてくれたり、優しい言葉をかけてくれたりしたおかげで、安心することができた。

③ 研修の成果、研修で獲得したもの、当初設定した行動目標の達成度、問題点

私は、今回の研修を通して、英語を話すことへの苦手意識をほとんどなくし、様々な活動によって、自分の英語能力を向上させることができた。日本の他大学の学生と授業で交流した際に、会話でよく使うフレーズを相手との会話で学んだり、堂々と英語を話す姿勢を見習ったりして、日本の学生からも刺激を受けることができ、とても良い経験となった。正しい文法を使って会話をすることも大事であるが、相手に自分の思っていることを伝えるために、積極的に交流することの大切さを再認識した。私は当初、多くの方と英語で楽しい話やお互いに盛り上がる話をする、また、自分が知っている英語で積極的コミュニケーションを取る、できるだけ笑顔を心掛けリラックスして会話することを行動目標として挙げていた。私は、今回の研修を通して、これらの行動目標を十分に達成することができたと考える。しかし、やはり、英語の語彙力の大切さを実感した。会話をするにあたって、相手の話している単語の意味が分からなかったり、自分で何かを伝える際に適切な単語が出てこなかったりすることがあったので、今後、より多くの単語を学ぶことを含む、英語の学習に取り組みたいと思う。

④ 今後の目標、課題、当初設定した「研修後に実践する行動目標」の見直し

私は大学内にある図書館でバイトをしているが、研修参加前、受付で留学生の方が質問をしてくれた時に上手く聞き取れず、やり取りができなかったため、図書館職員の方に助けていただいたことがあった。その時、留学生の方にも職員の方にも申し訳なくなり、もっと英語能力を身に付けたいと考えた。このように、日常生活で留学生の方と接する機会は多々ある。その時に、相手も自分も気持ちが良い会話ができるように普段から交流をし、さらに英語能力を向上させること、また、研究に取り組んで行く上で、日本で開催される学会だけではなく、国際学会に積極的に参加し、研修で身に着けた英語能力をさらに伸ばしていくことを、研修後に実践する行動目標として挙げていた。現在、コロナ禍であるため、日常生活で留学生や海外の方と接する機会や、国際学会で現地に行く機会はかなり減っている。コロナが収束した時のためにも、今回研修で身につけた英語能力をさらに向上させていきたい。また、国際学会はオンラインで開催されることはあるため、英語で堂々と発表し、他の方の発表を理解できるように、これからも英語の学習に進んで取り組みたい。

⑤ その他感想など

私は、今まで留学のような、実際に多くの方と英語で話す機会に参加したことはなかった。今回、オンラインということで、参加したが、実際に海外に渡航してみたいという気持ちが強くなった。実際に渡航する際には、ホームステイや日常生活を送る上で、英語を話す機会が今回の研修より必ず多いはずである。そのためにも、自分の英語能力をさらに向上させるために、積極的に学習に取り組みたい。また、コロナ禍で渡航が難しい状況は続くと思うが、今回のような機会はこれからもあるはずなので、積極的に参加したい。英語でコミュニケーションを取る楽しさ、大切さを学ばせてくれ、とても有意義な時間を与えてくれた本学とスインバン大学には本当に感謝している。今回の研修を通して、自分を成長させることができ、本当に良かったと思う。